

令和 5 年

高松市教育委員会 10 月定例会

会 議 録 (抄本)

10月26日(木)開会

10月26日(木)閉会

| 出席した教育長及び委員 | | | |
|---------------------|-----------|--|--|
| 教 育 長 | 小 柳 和 代 | | |
| 委 員 | 吉 澤 潔 | | |
| | 葛 西 優 子 | | |
| | 小 方 朋 子 | | |
| | 富 家 佐 也 加 | | |
| | 和 泉 憲 | | |
| 欠席した教育長及び委員 | | | |
| 委 員 | | | |
| 説明のため会議に出席した者等 | | | |
| 教育局長 | 河 野 佳 代 | | |
| 教育局参事 | 一 原 玄 子 | | |
| 教育局次長 総務課長事務取扱 | 長 谷 山 隆 義 | | |
| 教育局次長 生涯学習課長事務取扱 | 合 田 紀 子 | | |
| 学校教育課長 | 山 地 芳 樹 | | |
| こども保育教育課主幹 | 久 保 優 子 | | |
| 文化財課長 | 川 畑 聰 | | |
| 文化財課長補佐 | 波 多 野 篤 | | |
| 総務課長補佐 | 春 日 布 三 | | |
| 総務係長 | 別 所 里 美 | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 会議録署名委員 | 富家佐也加 | | |
| 事務局担当書記 | 岡谷有紗 | | |

【特記事項】 傍聴人なし

議 事 日 程（10月定例会）

日程第1 議案第27号 文化財課所管5施設の観覧料及び貸室等使用料の見直しについて

日程第2 報告事項

- 1 11月園長・校長・副校長研修会における実践事例研修「シビックプライド醸成、生命の教育の実践発表」について
- 2 「令和5年度全国学力・学習状況調査に係る結果の考察と今後の指針」について
- 3 令和5年度「早寝早起き朝ごはん」生活リズムチェックシートによる調査結果について
- 4 令和6年度高松市立幼稚園の利用申し込みについて

【令和5年10月26日（木） 議 事 内 容】

午前9時30分 開会

教育長が、会議録の署名委員に富家委員を指名。

日程第1 議案第27号

議案第27号 「文化財課所管5施設の観覧料及び貸室等使用料の見直しについて」

文化財課長から、文化財課所管5施設の観覧料及び貸室等使用料の見直しについて説明。

<質疑>

(発言する者なし)

教育長が、各委員に諮り、原案のとおり可決。

日程第2 報告事項

報告事項1 「11月園長・校長・副校長研修会における実践事例研修『シビックプライド醸成、生命の教育の実践発表』について」

学校教育課長から、11月園長・校長・副校長研修会における実践事例研修「シビックプライド醸成、生命の教育の実践発表」について説明。

<質疑>

(発言する者なし)

報告事項2 「『令和5年度全国学力・学習状況調査に係る結果の考察と今後の指針』について」

学校教育課長から、「令和5年度全国学力・学習状況調査に係る結果の考察と今後の指針」について説明。

<質疑>

- 委員 全国で実施されるテストなので、市の教育委員会が分析して結果を教えてくださいますが、最近はいドリルなど自分たちが解いたものの結果が、データとして先生の手元に残るものも多くなってきているとなると、今後、先生方がデータをどのように分析し、どのように日頃の授業に生かしていくのかというのが重要になってくると思います。分析や対策を立てるための研修等は、どのような現状なのですか。

- 学校教育課長 各学校により様々な状況があるとは思いますが、よく聞くのは、まず全国学力・学習状況調査の問題を先生方が解いてみる研修です。校長先生方に聞くと学校毎に正答率がグラフに表れますので、例えば回答が二極化している等、グラフを見て、なぜこの回答が一番多いのかというところに焦点を絞り、それを教職員全員で考えるという研修をしたりしています。昨年度は校長先生方の中間面談で、教育長から

この結果はどのように分析するのか、どのように考えるのかを考えていきたいと思いますというお話をしていただき、市の教育委員会としてもいくつかの学校の取組を校長会でフィードバックさせていただいたところです。

- 教 育 長 全国学力・学習状況調査は平成19年度から開始して随分長く取り組んでいます。当初は県のレベルが示されるということもあり、力が入っていたのですが、何年も経つと徐々に意識も薄れていきました。全国の平均正答率に比べて当市・当校の正答率はどうなのかというところに注視してしまいがちなのですが、自分の学校の子ども達はこういった問題で躓いているのか、そのためには授業をどう変えていかないといけないのかということが最も大事であるというのを小・中学校の校長先生方に面談の際に伝え、また、各学校が全国学力・学習状況調査に対してどのような分析をしたのかを報告するよう依頼しました。小学生であれば、6年生だけがこの調査に取り組んでいるのですが、やはり6年生だけで頑張っても力はつかないので、自分の学校の子ども達はどのようなところが課題であるのかというのを、まず全員の先生が一斉に問題を解いてみて、どういう力が試されているのかを知った上で授業をしていくというのが一つであり、なおかつそういった課題を解決するためにはどのような授業をしていかないといけないのかというのをしっかり学校の中で話し合っていたという経緯があります。御指摘のように、ただ調査をするのではなく、市の教育委員会は詳細に分析するのですが、学校の分析もとても大事だと思いますので、しっかりと分析する必要があると思います。今年も昨年と同様にしっかりと分析しました。学力だけでなく、質問紙調査についても学校毎に子ども達の意外な実態が見えてくるので、学校行事で力を付けることや意識を高めるための対応も始まっていると中間面談では聞きました。

- 委 員 質問紙調査における生活に関することの読書については、読書を推進されている効果が出ていると感じました。また、学校訪問に行った際にどの学校でも、我が校は自己肯定感が低い子が多いと聞くのですが、高松の子どもが上を目指しすぎなのではと、ある水準より上でないといけないと思こんでいるのではないかと思う節がありました。どの子どもたちも頑張っていると感じているので、この問いに対する

子どもの捉え方が非常に気になるころではあります。また、学習に関することで、ICT機器を使用している学校の割合が低いということですが、学校訪問に行くと授業でICT機器を使用しているクラスも全体的に少なく感じたので、向き不向きがあるとは思いますが、もう少し使えるようにした方がいいと思いました。

- 学校教育課長 質問紙調査の自分自身に関する「自分には良いところがあるか」という項目は、子どもがどう捉えているのかという子どもの気持ちを考えていかなければならないと思いました。ICT機器については、確かに使用している割合が低いところがあるのが今後の課題です。学校側からは、ICT支援員を入れてくれていることで、助かるという声も聞いております。
- 委員 質問紙調査の学習に関する「授業でPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している」と回答した子どもの割合や、「学校の授業時間以外にPC・タブレット等のICT機器を勉強のために利用している」と回答した子どもの割合が低いということで、これらの割合をもう少し上げなければならないと思っています。しかし、生活リズムチェックシートの評価では、逆にデジタル機器の使用時間が長すぎるということでした。教育を指導する側が最も努めなければならないのは、ICT機器の使用時間についてではなく、使用内容についてであると思います。SNS等の使用に伴う危険を可能な限り減らすことや、内容の危険度等を知らせることが大事なのであり、ICT機器に触れる時間は長くてもいいと思います。そういった教育をもう少し方向転換していく必要があると思いました。
- 学校教育課長 あくまでICT機器というのは道具であり、目的は子どもたちの成長のためであること、そのためにICT機器をどのように活用していくのかという本質だけは見失わないようにしなければならぬと改めて感じました。
- 委員 無回答率が高いもののうち、中学校の英語は時間が足りず回答できなかったのか、分からず回答できなかったのか、どちらですか。

- 学校教育課長 両面あるのではないかと思います。英語のみに限らず、無回答率が高くなっている問題は、どちらかという後半に多くなっております。小学校のテストの最後の問題に文章の量が多く、しっかり考えて解かなければならないような問題がありました。その問題の今年度無回答率が非常に高くなっていたので、恐らく問題まで辿り着けていないのではないかと考えています。英語の問題については、様々な問題がありましたので、両面が混ざり合っているのではないかと考えています。

- 委員 テストを時間内に全て解くことができるようになるための研修や指導はするのですか。

- 学校教育課長 基本的には、最後まで回答できるように努めましょうということは伝えてあります。また、昨年は大事な調査なので頑張るよう各学校でも再度伝えてもらったこともあり、無回答率が大幅に下がった学校もありました。最後まで解くことが大切であるということは、指導しております。しかし、小学生ではいつものテストよりも文量や問題数が多いこともあるので、時間配分を考えることまではできていないのかもしれないかもしれません。

報告事項3 「令和5年度『早寝早起き朝ごはん』生活リズムチェックシートによる調査結果について」

生涯学習課長から、令和5年度「早寝早起き朝ごはん」生活リズムチェックシートによる調査結果について説明。

<質疑>

- 教育長 タブレットを自宅に持ち帰り、宿題や学習をする時間も徐々に増えてきてい

る中で、チェック項目について考え直す必要があるのではないかと思います。デジタル機器の使用に関して、学習で使用する場面も増えてきている一方で、全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、ゲームやSNS等をするために1日当たり4時間から5時間デジタル機器を使用しているという割合が年々増加してきている現状もある中で、チェック項目について少し絞り込み、設定する必要があると思います。これまで教育振興基本計画に沿って調査という形でしてきましたが、目標の設定を個人別に設定しており、それに対しての到達率ということで集計してきました。しかし、本市の小・中学生の生活習慣の実態を把握するためには、このデータでは自分で設定した目標に対して、どの程度目標を達成できたかということなので、きちんと実態を把握することができません。そのため、来年からは啓発はしっかり行っていくけれども、データを市として取りまとめるのではなく、各学校でしっかり分析し、学校保健委員会や、保護者に啓発を行う形に切り替えていきたいと思います。

- 委員 実際はこのチェックシートを持って帰った時に、自分が達成できそうな目標で設定してしまうところもあると思うので、各自の目標の設定にも幅があると思います。全体で集計しても、あまり集計結果としては活用できないのかもしれませんが、このチェックシートが配られて記入することで、少なくともその期間は自分の生活リズムを見直そうというきっかけにはなると思います。これはぜひ継続してほしいと思います。
- 教育長 4月に新しい学年に上がり、最初は張り切っていたとしても5月の連休明けくらいに生活リズムが崩れたり、体調を崩したりする子どもが多いので、5月に実施している生活リズムチェックは、今後も引き続き継続していきたいとは思っています。
- 委員 子どもに置かれた環境によっても、生活リズムは変わってくると思います。近所の登校している子どもを見ていると、朝早くから元気が出ていますし、地域にもよるのではないかと思います。目標のレベルをどこに合わせかにもよりますが、チェックシートを毎日チェックするのではなく、チェックし忘れた一週間分を一度にまとめてチェックするような感じでは整合性が取れないのではないかと思います。

- 委 員 回収率が今回も減っているということですが、提出しない子どもの生活習慣が気になります。チェックシートを提出する子どもは、本人も保護者も意識しているということなので良いことだと思いますが、提出しない子どものケアをどうするのかという点が気になるところです。
-

報告事項4 「令和6年度高松市立幼稚園の利用申し込みについて」

こども保育教育課主幹から、令和6年度高松市立幼稚園の利用申し込みについて説明。

<質疑>

- 教 育 長 1号認定や2号認定等の認定区分がありますが、1号認定のお子さんは減少しているのですか。

- こども保育教育課主幹 減少しています。共働きの家庭が増えていることや、令和元年に保育料が無償化になり、保育所や私立幼稚園や公立の施設でも保育料がいらなくなったというのが大きいのではないかと思います。

午前10時20分 閉会

議決事項

「文化財課所管 5 施設の観覧料及び貸室等使用料の見直しについて」